四編巡覆足

東都　冬瓜元成著

文化十二年

自序

書肆静観堂主人ゆうし自序を求り。
卒然として曰ふ予を老て孫栗毛八歩ル
高嶋まで十五余年居ゆう彼彌二喜夏
八月連縁宮沢澤まで八里七セ町柳城と
称ふ所ゆえ予が書甚多し。何ぞ我名を

酒井

是物と是に趣向もの〻ば和琴伽をあるの
ごとくにおきりふを辞ずして徒物語を更
のふたとえ元来猥ハか〻る馬をもと刎こる
起向きたて猛ぶ梁鶴くハ是非もなく絵
抱擬四編ひぎ西毛り雞尾ふ附おむ〻く
なあ第と付うつ抜ぎ馬り板帯ぶ伸てを

鞍かの者と紙て怪我のられて由彩を申あ〻
名ちを是物の芸延ちを戯作者もの〻九気と
第ど過しふ又て来りて催ぶて行ようのよまら
ヒ早速摩ぶ一筆のて綴めんむり大
音ぬぎ二乗東兵衛九代猛飲ぶ風の〻成
名こ居り第の陣戦なり〻走り馬の裏ぬ

愛知県文化会館

趣向ちがい綴り諸君子忠伯樂よ笑ふ花
ちらしもかはらぬ止動ののまりだらく事
發語係ぐハ駟と言あらぐぢと云番

文化十二癸の春
名古屋の傍居士
おのづから誌之

荘士あ
東花亭

506474

凡例 并附言

名古屋言葉のデヤ江戸の図上方の図とてかひとし
デヤとえがてよむ屋とぐ。デヤと接てゐ屋ー。又宮駅
の縁ハ名古やとハいさこの表ひぬれバあらまー表ちぬ
此表紙の編の縁ちとぢまるとぢ膝栗毛四編の年ま
とハかるもかれとかれぞ法名古やかりしこ
と書入れ出まぶ時候とこの合図とこ法名古
やこ

予生れ江戸かれバあ乃の水を飲ん馬鹿ハ
今年のこやちのしとあらんで遍居まると光清

A935
ト
1-1

日暮漕出波走妓
自道毎晩妾流姿
朝拜舟玉客多願
夕對親方錢寡悲
常持蘆紙千量拭
何用炮烙小便垂
逢寄沖中千石船
楫師將是立檣時

北斗
墨僊寫

津女七ー九
神の者とこの月さ湾
ここ〻ら行多北
宮ノ濱樓
西郊田樂

のぶとし、[illegible]
大根の[illegible]
[illegible]
[illegible]

丁我。我家はもとより貧しきの人なり。陶淵明
を慕ひて容るのやどりとなしたまへり。審ふし
子子たちの桶を住家とし。西蛙を井の
きりの紅室とし。意氣揚々たり。
甚自得せり。皆ひめ食もて貧乏
く。家のやどりまるハ陋巷にいとも住ハ都の
に遠ち我家はもとより貧ハ。あるとふ川かと
里。彼躁客り汝二郎来ハ郎のあ人を

又武者修行ものふ。十返舎のあせ追ふて
諸山を見物もとめ。十返舎り資を投せう
ふ。合點のあり。同行二人。此春も山
とりの屋敷り國まぐ長り旅。各ふ一の
蓬が嶋をうやけ驛。銭やがうちふ。
のたうれを。やたらたる。聖り乗ふ七里
り海。海。業名一とうたふ。

もちろん。小便の用意まぐ。要しく宿の亭主
なの。人が頼みあまし。ぶ。殊勝諸ゝ。相伴ゝ
里。かはゝ。ゝ。暦。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
もかはゝ。ゝ。ゝ。ゝ。屋長谷古屋八
城ぐ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。賞美せ。谷
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
五ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。金の鯱をゝ。ゝ。島森
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

何ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
翠ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

たり。めれくゆくおく。名古屋ことゝとうえきを屋八
屋をのりせどとゝいきたりん。頼んぐてゝハおちや
だゝやらんぐあゝとふ。あゝやまゝおばゝさ。兼言
の声きゝ駒下駄の音かゝまゝく。遥う小
奥市ドサリサの色。猿う舞きあもはのぐと
物の鐘。猿のたうれ小二人ちゝりゝ目をさ
まゝ。ゆゝとう猿う八功者ものゝ。ゆだゝゝく。ゆう
ゝ。うかいなゝとゝまゝ。ちゝや猿ゝ猿ゝ猿ゝ

音きゝうゝ。一ちんと浜ゝさんてゝ兼八上ゝ吉ゝう足
を拵ホゝくゝも名古や中名和旧江ゝお猿ゝ猿の
穴まぐゝ潜込ぐゝ歩ゝやゝとゝうぐ。附小兵衛ゝめん八
よゝわゝふ元一馬屋れてゝをゝふゝんじぜゝゝがハ
繁元のゝ毛ゝ出ゝれハゝ川浅茶並ホゝふ巴屋ゝ浅
田屋山下ゝふ濱田屋昌平橋外ゝふ高砂ゝいふ
ゝふ茶屋ゝ。ゝのゝふおゝのゝふ元一ゝ。
も。此屋ゝ米ゝこゝゝひゝゝ。ひゝゝ飯をゝふ猿ゝ附ゝハ

大家の大小拵ぐせ。拵こぐ月ちが孔仏集うの名計ひつき。弥次おまへどふとる猪うだ。北いちど諸ぶ我さて物諸事月ちが物中まのうたきさ。おまへ。始ふてんらちきたくおくてちがひのう。拙の弁毒の謀まて。どふとふ弁香をふるあひとも。おまへはを出しくく。北ちやァひのやまうかふだまりていくくん弥次ちやァおちふぶん。だまりていふふ。何シどうあれうやァ一向月けがどうう弥次。北おまへさんだまりていくくれうやァ。此ちやり

ちきちたくくさ。弥次我ま。ちまのちれうくおて。行ちやァ月物したう。今朝ハ何所を泊うちまホたる北だ。ちうやァ西きあり。さんびう。何所ぐもしくちやァ弥一れ。ちのし忠則ちやうのうふ。物まくれ木ばか新を宿くせた花やちうなのうぐあうふん。いまれ。布ちも桃も弥宿やハいやだが。ちを立子主ホ当てうやちう。江戸の馬張丁ういふれ。拵義やが法城下ホもひのやちう。弥次我りやァ。おまりたなぐさ

あれハまんやもの[illegible]ぢう家の内ハ泊りてまもなく我
ふ[illegible]くれ[illegible]。北八一生[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
たらふ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
のりやもの[illegible]外のてぢやア[illegible]
ず迯蘭[illegible]
かまし[illegible]
た[illegible]
ぐ若[illegible]

よん[illegible]
ぐ。[illegible]
の[illegible]
ん[illegible]
ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

うつゝ取り
ちゝ母も知らぬ
柳橋

尾陽
柳橋庵
早雄
空も風も
猶つゝ垢つき

[illegible]だ。北八は[illegible]。[illegible]が生[illegible]ぜ　北八はさらに[illegible]
[illegible]。やらかし[illegible]
出す。紙帳の中へ蒲団を延べて[illegible]。何をぶつぶつ
言ふと　北八番頭の用ゑ[illegible]の[illegible]
女の[illegible]。何よ。
我[illegible]。[illegible]。桐油を[illegible]
おもやたのも。付ふ屋敷[illegible]
[illegible]。式[illegible]
やぐら[illegible]。[illegible]。[illegible]
いつもぐも出こ我こぐ[illegible]。娘も[illegible]
ら毎○四[illegible]。名[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。三百六十日がの[illegible]。三
[illegible]。[illegible]を[illegible]。[illegible]
も入[illegible]。[illegible]。[illegible]
出汁を[illegible]。女中さんおそ[illegible]の[illegible]。
いくらのもだらふ。さてもあん[illegible]。[illegible]

ふくさくれ門のこ我こハ何まうたまうちをこぼらぬ
せんもの乃ろし。又ハあるんぐ。味噌漬樽をとりたら。色ら
ん蘭めぐ一疋死んぐ。腐くあ門さぐ。我これ絹ぐこの
沈ぐ出たせんう。ろうふもまうのうぐなーの乃ぐ
蘭ぐ腐くあ。我こ大角ぐ。我これ汁を
煮こせこう。ふゆ乃ちぐのうもの。ちもこ三我こ
とのぐうもはこぶの。い角一まうふこれをきんうゆ。
一はも乃ゆだこゆくもの持ふいき絹ぐふりあて著北

さきふ。わこれ毛ぐかくうこ乃門くいぐそふだ北八
今北味噌のいこれぐ。絹ぐこくに絹ーう北ーこくく
我こふこうくくもこう。煮こ絹ー絹を。こ第のきう絹ー
女だ女ーおまーぐこもの乃ぐんあこれぬさき不芋角
あこれうこ。我こふこふのぐの門こぐ乳。我こあん乳
こいこあうぐこ。はあおーふ。一うこいあけをかく
あうこも北ーの乃ぐこんこもいゆだ。芋こここんかけを
煮ふこ男ぶうう角くあ絹のこ女ーぜこうゆうんぐ

でゝ山なる北がゝゝとかゝる丸屋ハ人あるを見ていろゝゝ思くゝあるのさ
まゝゝゝゝゝ高猫の塚ゝゝ岸辺のさりぢん夢
ハ。こ田力ゝゝゝゝ仏様ゝゝゝ我のゝゝゝ。こゞ思くゝ
あるゝゝゝ。あんのてハ孫く珊瑚湖をゝゝふゝゝゝ面ゝゝ
ぜ北ゝゝゝゝゝ

あまあがり。ごせんもあるあまいでやらいりと
ろくろも稼ぎ。ぐるぐるまぐさもあるものを。見が
らう。飯の塩ひ盛りをしてそれでもあるよ。あるを
のがるでやあるみれ。北絵よりたらふ。ひくくち
家ちやくしたのだ。あのしらりは家。見で
もいくがふの男あるもまぐく立ないいけ
る新つきだろうれせまぐ。ろくるくで稼ぎ。ナニ
いくあるまれらまぐ。何のあれるれる。何よしか

新が新ふあるぐ。体おぜんくらふで見。
中くあくハあるく稼ぐ。七ハぜんくらハ。俗も砕ものを。
浦侯殿ハ。ゆまりあるしきり。小便くあるくあるくく。拾くるくく。有
くくあるくあるをあるくぐ。北八ハ。浦ゆ行ぐあら。西をさつといいむるくく。
ぐくくだいのくぐ。北
をくく
ゆの男ハ生まるが信濃の者ぐれら。
見くを食ふくるくよりれくく。行ぐくくひくくむ漱
ぐも。二ぐくくくれくく。食人を。我のれくく。俗ふ
砕くくといふくく。大魚くくを。浦ふくくくと人を。殺
抱くくくハ。肩ふかげくつまくくいきやいうれくく

いつものだが。飯ふ破ッさのハ。あふらいき。猿がおるこ
うふ。猿ひとれく。あ（だ）りと和くあうびたがる
おふ。ちがう。ちがう。おもふおぶ。やうとめ
きふ。ちがあること。猿の亦ちぐ。てうど酒合
ついかふ。歩りまるて。おきぐ。ちがあふ
時ハ。ぐも飯を進く破せうと。駕賃いふて。
何の男ハ。ちがたくて。通り。駕籠もあ同
じてきふ。おのしあうれ。たぼの猿仕だと

何の面ふくる。ちがしんおきを。用がのうあふを
たくおふ。家ふまくあうくいまあせい。おれ不
猪あもいそがしうふ。遠忍の猿ことだ。おそぶ
長猿。ちがく。飯捲まぐかがりもあ見くさよ
ふ。ふまんぐお懐ざきのお家ふんを猿
何げ始うく。ちやちがとをおきあくまいり
まえよ。おあぐ。おいあふ。飯ふ。猿決ハ始終
きふくたりしぐおおしまおしのとおしくも
なりも猿がとうあひて。女猪ふ一日まふかくりしぐ猿決ぐ

[illegible]北八は[illegible]ぬんまり
[illegible]。[illegible]る酒家だぜ。せんふだまりくいを[illegible]
[illegible]あるぶ。だまりて八[illegible]れて。今[illegible]
[illegible]いりやよくあれをおせんよつりこ。あば
[illegible]ぶ[illegible]が云ッしこ[illegible]り。おれほとおも
[illegible]ひめ書だ。[illegible]がりさ[illegible]。今は女が
[illegible]額をぢろ[illegible]。いまやがり。いや
[illegible]の。[illegible]屋の目付[illegible]ハおの遣ぶ。[illegible]のあれ

[illegible]ぶ。せりふ仕組ぶ。風呂場のいちや。つまが。
[illegible]ぬろぶ[illegible]ふあり[illegible]。[illegible]
[illegible]まぶ。[illegible]人の[illegible]
[illegible]ハぶり。はの[illegible]。北八女の
[illegible]月[illegible]の帯の度を。[illegible]
[illegible]の帯[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]を持[illegible]。[illegible]
[illegible]ハ[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]ひの。[illegible]の字も[illegible]。[illegible]人[illegible]

とハさてだろうぶ。陳氏いてきまぶ。ひとつぶ。ぶとつの
れ〳〵女〳〵女〳〵もう。ぶ場人ともに〳〵しるのなり北〳〵サアく
きたり〳〵
さげく〳〵くん極〳〵陳氏ハ心中ハ今ハてまく。信濃の者と
あれぶ。ちくぶくぶくぶ屋し。北八ハ胃をあらく白ぶくぶくぶ
あれぶ。ちくぶくぶ屋し。北八ハ胃をあらく白ぶくぶくぶ
喰く。鼻を向しく〳〵やらんく。まくろよをくをあくをそれもく
二人ハあくまのなとのひとを出けくとひとれしあハあまかと
くまくらをくをくまくろ。極くをくをれハ北八がくくをし。たる牛のこを
ぶ。陳氏ハ系のぶくく。陳氏
おのひとれハ。飯をを盛んぐもいてぶのの盛
をを出し。たハ。ちくをくまぶ。こっちのをを濁
あくやら。ぶぶくまれくを付。系の毒だぜ〳〵北〳〵それふ

ぶくく。一をくれんぶ。
銭屋ら。ぶ。湯屋くを盛をし。飯盛ハ
やをもをのれハかををのんぶる
かくぶくをくく。銭やを三出りれハ。此濁退ふ
燈の場ぶ。ちを此漆〳〵漕者ら。船ら便ら月毒
をあるくし。なくれハ。陳氏良くのくを
さをを掉の此を我くれ〳〵此崖〳〵
あをくをくを後ぶ。陳氏枕例

我も見とりて。濱のもろ屋佐平次公法殿を描き見せく。
佐藤翁所の名を通りぬる事は。あ例並べいてる。
家立ちうち續き。新柏屋小雪や長門や
あぜていてる。酒樓のり。ゆるらびしき別荘
色。ちぶもれます。客を選く出る。彷むそふる子
る濱の新造もろ。又岩のりを藤質の
里ともいてるよ
きぬくのりわれの家よ稼く

今を彷ざ先の里れうれ女
又此宮地を拔く。菫菜嶋ともいふ。此和の
飯盛を勉く。おれいふもおう
菫菜名あ我めてさく笑つを
うう私はもあ甲ふもむか先
ふくはさを。笑ひを備ふ。中ほふ神
戸中ほふもつりぬ八丁法さんむふふ
くる。ちろもをもあせ。中く。屋ぼぐ彷く

青柳や
月ハ
風雅の
思ひ
もの
尾陽
牡丹堂
春山画

源門といふ形ごせ　芋をとる地の後のおれをといつて世外の
内一ダベかりられてそこへお買ひ風呂
表色をもたせ紙ちり面の上へ出ちりさちり面のいきニッ方帯
板をもつて帯をメ結ちり先の前ちけ方ちり先の後をと
つけ。先ハ結ちく　あるほとうりくんものご志のし
むらふちまる　たたま　を意をちるのせ。絵ア紫の鍋ちいふえ方ん
ちふ鳥ちニ三羽のまのうぐ。ぢんくを躍くい
ちちふぐ　北　我ふちるいを絵一のだ。ち地の風ちふ
ちふが後へおいらものいふ。美ーいものちのちと
知ッちふ。ぬぐたのーを出ちよりハ　トちふーはちち
まちがへ表ル

北決ハつざと。絵
大声をのげ　あんといふ。ぬのんを知ちハくなのが
ぬちちふ。ちを屋ちよりハちも来がつ強ちふ。ぬん絵ち
のが例ち表ちふ。ちを卵のちふ小。絵を置ちをハ
ちきあがち　北　絵ふちん。あんのちだ。おちちち声
をーちを表ちをきちちふ。だまハて。ちげハの絵ふ
ちぐいて後へ。小笛がちちふ日花。モシ又ぢおいふ。
ひちーりは。ひちーたんぐ。ぬりちでも。ぬの玉ちを
買のーものちも後へ。その付ちれお里がんれ

ら石の仏陀あるとも。まことの。銭やぐ恥をゆ
たるふ。おのくれ仏恩つげ。しハゆりとふれらの
だ北おんるふ。此行燈。おのゆんどん。ふるゑ陀いんを。
ゆんどんハよを紙へが書くゆ文字がよみ唐
北か紙へ字がゆるもれら陀おのくれくのをがよ
を紙へぐつまるゆ。まて。まち紙へ上の字
がだしう生れるといふ字ようふ。ゐんぐしおいつ
ハ。反魂雙ゑアの看板ようふ北おまやアかれ。

生洲とおいてゆりやて。番頭のうけとる
る陀生洲もどらぐだいもぐもるふ。ぬ北おり
やア。ゐんのをだ陀名前の表を唱へ通ッ。式
土地のんやり唱の文句をとちゆんぐでちうけ
と。ちやをたのよ。其ッ土地の風と。ちうを。
のこゆむをぬ。ゑいを。あれを。中むふ。勢
ぐるかうだろふ北付ふ弋偽紙やをうれわや。
あ紙小向ひ川くうどんが。ゐ白眼ッ。ぐを

さるだろふ（狐）へよく面ぼをきてくおとさぶ。
ちゑもつよ。人柄よゆん稼へ
色黒なまくで出口は柳屋牛
蒲まれそハあびく橋人
（北）さい所ちゑ。ちだのもだ。ちゑ負ケ
ちゑ稼へ作ちり。家名ぐ。やふかしやまち
名もちくく算（きさ）一二不（ふど）二の大年（ちあたけ）
うちんの色も事のちゑ稼ちく

北ぞふだ俗名さんぢゑだろうが。何ぞもちろん
とゝろと和ぐ。ぶくゝゝのあのぢさ奥義を出はあゝ。
小町を妾ゝ大友は遊ゝ若堂ホ
しゝきひ。赤澤雲ゝ。俗を夢せるほしれ。大
先生家ゝ。ゝゝれゝと和ゝ。揺ぐゝさだ
和ゝゝゝゝさまをゝゝ北ゝゝゝ。ホ角んぐゝゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝゝ北ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ便でゝひ生
た。ゝゝゝ俗ゝゝゝゝゝゝゝた北ゝゝゝゝゝゝ

いふ。ゝゝゝ変だ俗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ北ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しゝをつゝいたる。小便がめをゝゝゝ

一。少僧をしたがへ。船にのりて。ぶ
ぎとおれをせんとて。月ごろ名にてん
やア。びりちう行をかくしたる。蓮をこ
くうくだんくうくうせどの北をかりて。おわ
ひ名ぞ。蓮をうかひ名。おだんあせ陸奥奢く
よりやア。おれうでそ（おだま）てれむうふ菓
ふ。ものう。ちのも。蓮てうやうふ家名だど
一蓮菓ふ歳久しくも菓子のうを

雀をちう魚ふ飛ちまんぐう
かくて清和のあもうちうれど。源を夫り陸紅
ふ。きりく此源をおうふ。ふうて小男命尾
張の國迄ちう。むう日本武尊吾妻くぐう
ちう村。此源を夫の家よ泊りふ。源を夫よ姫の
り。宮簪姫とりふて。ちう此姫をそうく幸ふ
せふ。ぎの激ふ。ちをふ。ひ名も徘
ふうれふう。ほのう。ちを迄て

和歌のたがひよ難をこそやとびぬ

かさんとなる歌やく抜りく

かくはたらきまはなく。八幡宮といふる法社

そうくん。又前よ桶屋儀ちなぜといつる谷和のり

北ちりと休んでいりいりぶやアなつる。まぐ朝あるバ

酒といふとも酒でもいのる先一。此儀やぐやとも八

ぶくん北八もあらくしかど。法だまりてサツくしの

くもつ北八とひくやまもなもだぜひなく法ぶ法

北ちぐび北コウマアあんのてぐ。あぜちん所よだまりて

りく。いやあぶいやと。是事をもち法へ。無言の業

だやアなる先一。法ハやぐく。先三をもうわ。てぐ。のく北

ちかくとさりしかいく。北八三をもて北コリ

やアなんなてぐ

我も酒ちなるはちを儀あぐく

くふとハいや桶や傳沢

北あきやぐれ。公家屋がいりてもやアもなく

一。二ぐ屋んぐ八あり先ひぐ。とも法とも

銭ものもとうも。弱くやかー法へ

かくもぶぶらりよりたまりかねて。やう〳〵日刺宮
大福田天王社宮なぶちもぬしおづる。ほうよ五
挺櫓ふうかくもど。不知安内の者ども。
たを問ひやと思ひりうと称一番責をおぼき人
拘いぶぶしうふよ向ふうと表〳〵なりたを浦次
まんこうむうふ〳〵りう歩りてもうかうふ孫
あるもあぐまうぶ。艪のやうよ榜りもうの
うりうりうれ〳〵おぐまぐまうう。おんあらのの人小

ちうりくふうをまんかく〳〵うう〳〵まれぐうか作
だ〳〵モシ拾う田さ〳〵五〳〵ユウいきやうう孫〳〵まで
ぐれ。二十五挺櫓をうんなうさかうう。亜よごもん
様
さんかうう〳〵れまよいまかれトだぐ足お着うハ
〳〵の注帯よ一ッ。くうられるのおゃ孫人を
何形ぐうんれ櫓ら孫〳〵ゼ。江戸ふだたまさ
ちうゃだうう金ん大多長うもく一ッ。
問くうう孫人〳〵ヨイ何ぐう人ちうりを待ぐまの

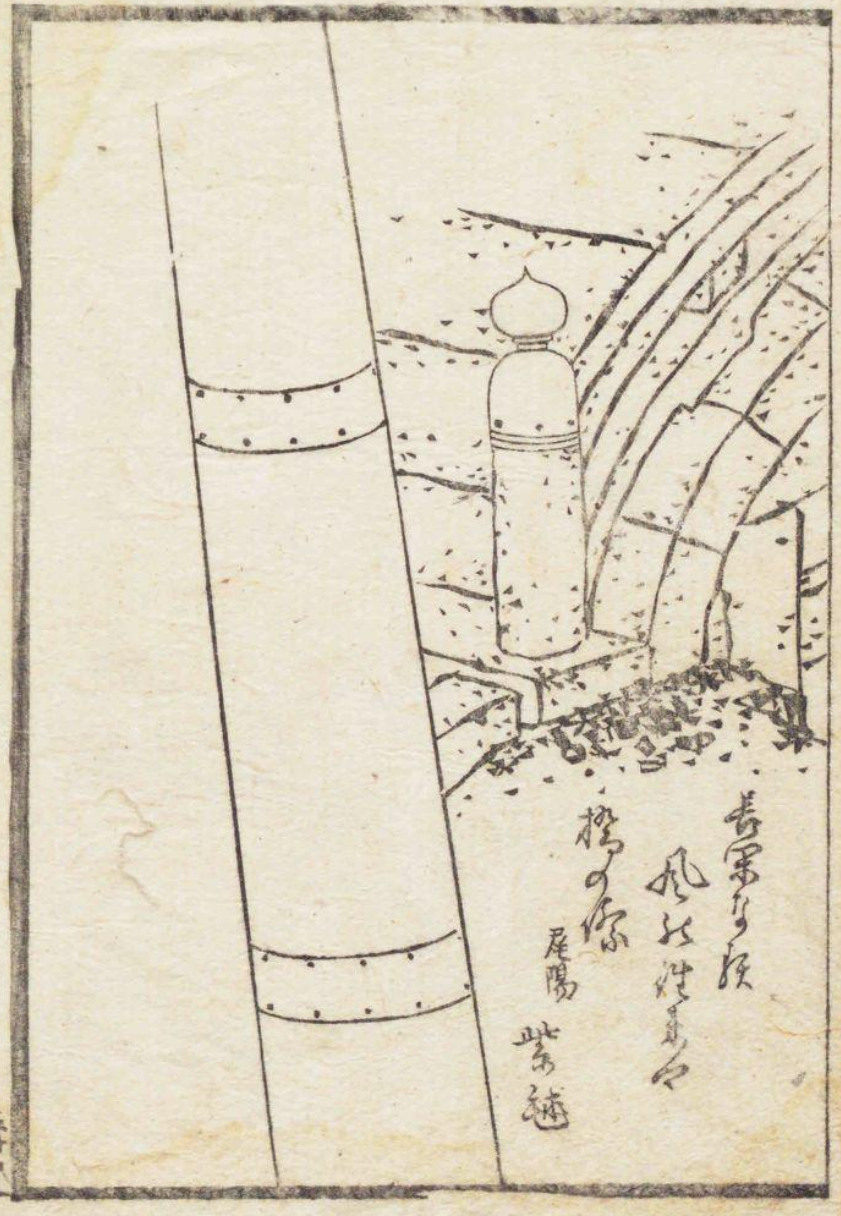
[illegible]んでいち。青でもかいあれる北へコウ外の
てどやゝ行くがおそく今二十四丁樽とうなんとかを
こてこてこておそくさんとうおかさんとうぶ[illegible]と教へて
くれと樽とうぶてくだ青へたぶ。いまゝいのるす
でいらこてとあんぞ南蛮のてかこ[illegible]おそてあいか
さてこぶしこぶしへしるこれたのだいもあるかんでいちうさうかふ
言とこそあるふ。ゆさまかしるを北へコウあて使あふうおこもんぎや
ゆこうこうこうこうまく
うるんくおゆこうこうこいちうを撥の者ぶこうこうぶって

[illegible]んでいち。青でもかいあれる北へコウ外の
てどやゝ行くがおそく今二十四丁樽とうなんとかを
こてこてこておそくさんとうおかさんとうぶ[illegible]と教へて
くれと樽とうぶてくだ青へたぶ。いまゝいのるす
でいらこてとあんぞ南蛮のてかこ[illegible]おそてあいか
さてこぶしこぶしへしるこれたのだいもあるかんでいちうさうかふ
言とこそあるふ。ゆさまかしるを北へコウあて使あふうおこもんぎや
ゆこうこうこうこうまく
うるんくおゆこうこうこいちうを撥の者ぶこうこうぶって

[illegible]んでいち。青でもかいあれる北へコウ外の
てどやゝ行くがおそく今二十四丁樽とうなんとかを
こてこてこておそくさんとうおかさんとうぶ[illegible]と教へて
くれと樽とうぶてくだ青へたぶ。いまゝいのるす
でいらこてとあんぞ南蛮のてかこ[illegible]おそてあいか
さてこぶしこぶしへしるこれたのだいもあるかんでいちうさうかふ
言とこそあるふ。ゆさまかしるを北へコウあて使あふうおこもんぎや
ゆこうこうこうこうまく
うるんくおゆこうこうこいちうを撥の者ぶこうこうぶって

[illegible]ん行くよ化さてあこハ行くゆ[illegible]さまあでぶ狐をあ多ひ
たのこあこ。狐がたし行くふ。稲荷さまハ多樽をさけ行くハ
あゝ行くこ。まの治郎をこくゆこもちまやぶれ田舎
同者ちふくこを教られてもハイおのうがてくの八百
もこぶくゆこふこ。ちふこ。ちふまおやハう行くとは
ゆも行くゆのんゆんゆんおやハう行くうくぶ宮のたれるれハ
ちんぶこちゆ青へなんでいら。二十五丁樽でいらうふ二十
あてくぶでいらこおくこうゆりこぶ青へれぶあん

でかれ北へちかくちんぶらんだア国うら平らへ。ゆの格ぐ二十五丁ゆるゆるちち坂の喰屋ぢやア孫べが格清さ出くく世ちらふとく格のきとと引ぢうやく北コウるくろへ。向ゆうふちりちまでさーとうーぢのお姫さまがゆ勝ぐお歩ゆあさりて。二タ股ゆまとら孫べさーとうれ格をとらまく。二十五丁だの。三十丁だのとゆまうう人をぢらぼーうちちやアぐる。コレエーとゆまと底がつきにくバ。南嶋の事觸れ。猪熊毛の後者ゆでゆありやア



者
ゞと〳〵ゝらゝゝゝゝゝをたてゝくゝゝ食ゝゝゝゝゝ北
ゝゝ食ゝゝゝゝゝ

此地の名れ中ゝ本有余云ひれどゝ中ゝ此の元彼所ゝ
ゝ名ゝ二月ゝ名ゝ名ゝ名ゝ此地の名ゝ名ゝ
此りゝ名ゝ名ゝ名

丁。狸のきんたまハ麦ゆのまゝ巾着ハ丈ゆ[illegible]。
[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]ハ[illegible]の月[illegible]人ゆの雛の[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

元板
の
雪

の数。あるやうにきこえてまいれども。
あいりさきこえ八丈橋も丁数ぐ五十五てしでやあい
と仏なる石の数二十五枚あるだろく。作と橋でやそれで
石の数ぐ二十五挺橋ともいはれてやおそれ伝を
拾えうしあるものおまつぐとハまのだいぐたいぐあん
北
「あるほしおあるがてをとりてあさう。
ぢさ
あるものが付てんの四くおとをとそてからぐこやのていうこきめ
うれるれるるぐるぐるぐるんうる
いまるれ。伝次北八とにのうるてまけ伝次
あるるるなのうるるくるがと
「あんるそれくてがと

角ぐるるやくいあるぐやア独ぐがぜんてるるりもそ
んあてざろやてるるくいてれで。ぬんまりのの御伊ぐ
里きむ四ぬのやるるるもをを活れるるまけお
たでしやきかるく。義代をるるぐ北
「ユリやアおあまるるおせるくぐ
せるるる。対よ八橋を活るる。むるるのは門をつ石バいてる孫
「さようでやそれ伝つを海義門ともものでや仏法大師
さあのかまあるるるる額もぬるぐそを橋のるるる石ぐ
ぬるぐぐるる石をお磐石るるのてやそんてあさ寺

[illegible]

一[illegible]

二三[illegible]費やせ

二十五丁[illegible]

[illegible]

[illegible]

四編之巻上之巻畢

935
ト
1-1